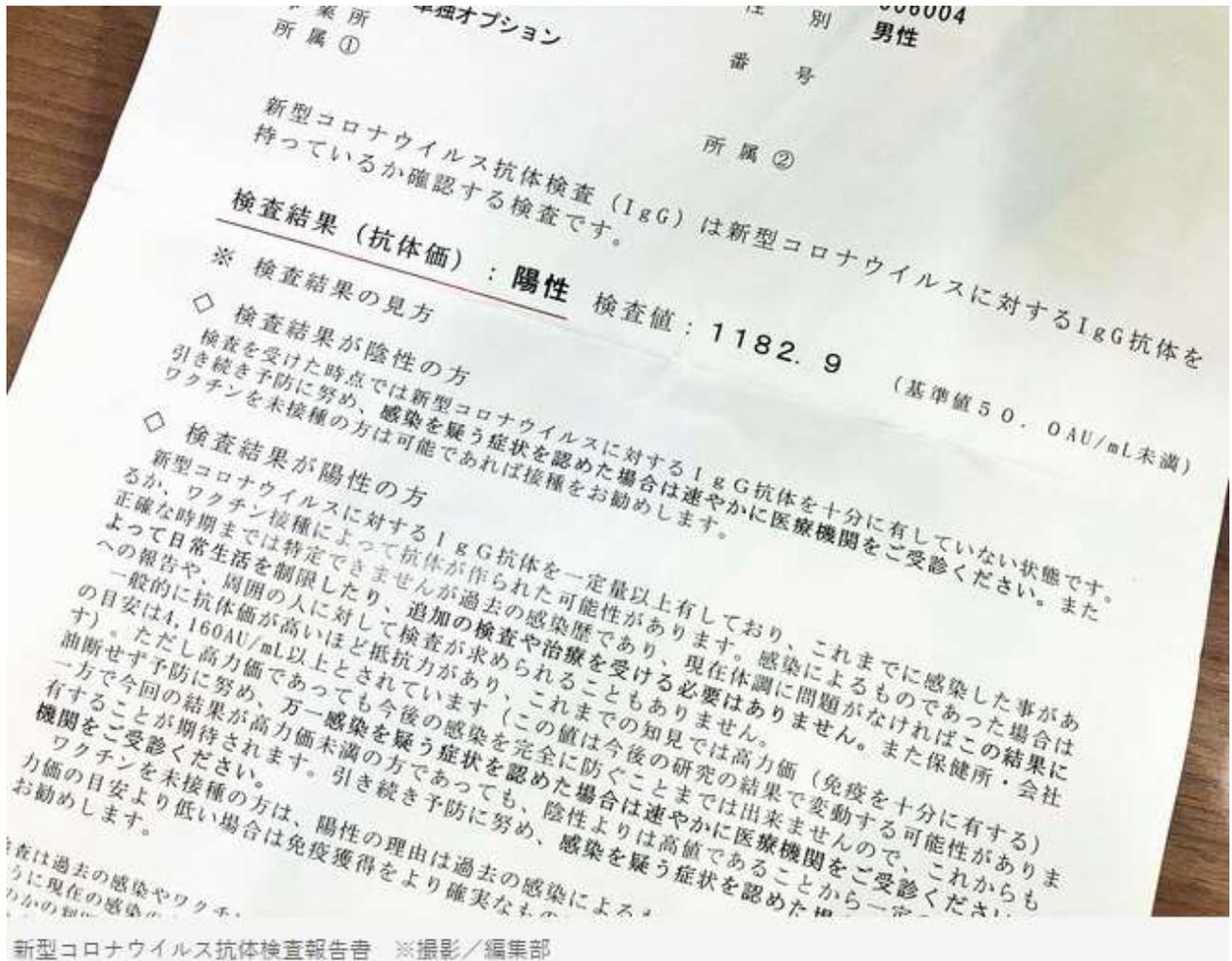


コロナ第11波続く中で「コロナ感染歴4回」の男性が抗体検査を受けてみたら

8/23 ピンスバ

いまだ全国的に猛威を振るう新型コロナウイルス。今年の夏も、変異株「KP.3」が流行する“第11波”を迎えている。



「『KP.3』は、重症化率は低いものの、変異により過去の感染やワクチン接種で得られた免疫をすり抜ける能力があるため、広がるスピードが速いんです」

そう語るのは、ナビタスクリニック立川の久住英二氏だ。例年、人の移動が増えたお盆明けのこの時期は、特に注意が必要だそうで、

「コロナウイルスの免疫の有効期間はおよそ6か月。コロナは冬時期にも流行しますので、免疫が弱まってきた夏に再びコロナウイルスが広がるんです」

なんと編集部内には、その免疫の有効期間を終える度に感染を繰り返し、これまで実に4度のコロナに罹患したという驚きの感染歴を持つ20代記者がいた。

「最初の感染は2021年の夏ごろで、インフルエンザのような38度の熱と激しい頭痛に襲われました。ワクチンを打つ前に罹ったので、“もうワクチンはいいや”って、それから打たずにいます」(T記者)

4度の感染は珍しいと前出の久住医師も語る。

「4回感染した人というのはなかなかお目にかかれませんか。3回目という方なら結構いるんですが……」

医師も目を丸くする感染歴のT記者は、21年夏以降も2回、3回、4回とウイルスに襲われた。

「一番つらかったのは、22年の冬に罹った2回目ですね。医師にはオミクロン株だと言われました。40度の熱が6日続き、つばを飲み込めないほど喉に痛みがありました。3回目、4回目は普通の風邪と同じ感じでしたね」(T記者)

■血液検査でわかった、基準値を20倍以上も上回る抗体

そこで、4回も感染したんだから「さすがに免疫があるっしょ」と自信満々のT記者に、免疫がどれほどあるのか、血液検査で抗体の量を検査してもらった。

「過去の感染、ワクチン接種によって抗体が血液にどれほどあるかという検査でした。ワクチン接種なし、感染歴なしの人が基準値50.0未満なのに対して、僕はその約23倍の数値でした。これはワクチンを1回打っている人と同等だということです」(前出の久住医師)

これだけ聞くと、T記者は心配もないように思えるが、宮元通りクリニックの度会敏之院長は、油断は禁物とこう語る。

「それだけの数値があれば免疫があると言えますが、株が変異した場合にも適用されるには限りません」

感染対策は必要だと新潟大学医学部名誉教授の岡田正彦氏も言う。

「抗体検査はあくまで一般的な数値を示すものなので、信用しすぎないこと。夏バテなどで免疫の落ちる時期ですから手洗いうがいなどは続けてください」

5度目の感染とならないとよいが……。ピンズバNEWS編集部

「コロナ第11波」『KP・3』が流行、発熱と強い喉の痛みも 市販薬を飲むなら…ドラッグストアで手に入る3選

空気が乾燥する冬ではなく、酷暑の季節にコロナが急増しているのはなぜか。

「昨年もそうでしたが、室内の滞在時間が増える梅雨の時期から感染者が増え始め、冷房の利用で換気不足となる夏にさらに増加する、という負のサイクルです。加えて、コロナの5類移行により、脱マスク、ワクチン接種の軽視、手洗い習慣の徹底不足などが起きている点も無視できないでしょう」(前同)

予防医療学の専門家で、現役医師でもある岡田正彦新潟大学名誉教授(医学博士)は、「コロナ11波」についてこう語る。

「今回流行しているコロナウイルスはオミクロン株から派生した『KP・3』です。あまり重症化しないものの、“話すだけでもうつる”と言われるくらい、感染力が強力です」

発熱と強い喉の痛みが特徴で、ときには40度近い発熱も伴う。

「橋下徹元大阪府知事も7月半ばにコロナに感染したそうです。すぐに39度を超える発熱があり、のどの痛みも激しかったと語っていました」(前出の医療ジャーナリスト)

橋下氏は病院で処方されたコロナ治療薬『ゾコーバ』により、幸い早期に回復したという。だが最近、医療の現場ではPCR検査やコロナ治療薬を断る患者も少なくないという。

「昨年5月にコロナ感染症が5類感染症に移行し、自己負担額はPCR検査で3000円程度、コロナ治療薬は2~3万円にもなります。重症化のリスクが低いこともあり、コロナの疑いがあっても、医院に行かず、自力で回復を待つ人も増えています」(前同)

では、いざコロナの罹患が疑われる際、どのような薬を服用すればいいのだろうか。

「コロナ感染症の熱や痛みを抑える薬として、私は『アセトアミノフェン』が入った鎮痛解熱薬を勧めます。同じ鎮痛解熱薬でも、『非ステロイド性抗炎症薬』は、胃などに副作用が出る可能性があるからです。

さらに発熱によって、食欲不振、下痢など、胃腸にダメージを受けることも多いので、一般的な総合胃腸薬も備えておくといいでしょう」（前出の岡田氏）

「アセトアミノフェン入りの鎮痛解熱効果のある市販薬には『カロナール』『タイレノール』などがあります。総合胃腸薬では、食欲不振や便秘などを改善する『第一三共胃腸薬 s』がいいです」（薬剤師）

また、スポーツドリンクやゼリー飲料も活用したい。

「脱水症対策に『ポカリスエット』などのスポーツ飲料、食欲がなければ『ウイダー in ゼリー』などゼリー飲料もいいです。ビタミンやブドウ糖など、栄養補助に特化したゼリー飲料もありますから、症状に合わせて選んでください」（同）

ただし、これらを活用しても体調が戻らなければ、すぐに病院で診察を受けてほしい。「市販薬では症状の改善が見られず、呼吸苦などの症状があれば、ただちに、医師の診察を受けるべきです。パルスオキシメーターも備えておく心安心です。血中酸素飽和度 93% を切ると、肺炎の疑いが濃厚です」（前出の岡田氏）

「コロナ第 11 波」『KP・3』が流行 “ドラッグストアで手に入る市販薬” 3 選

